

議 事 概 要 書	
令和 6 年度 玉野市地域公共交通会議	
開 催 日 時	令和 6 年 10 月 29（火曜日）15 時から 17 時まで
開 催 場 所	産業振興ビル3階 展示会議室
出 席 委 員	玉野市地域公共交通会議委員 14 名（欠席委員 8 名） 玉野市地域公共交通会議専門員 4 名 事務局 2 名
傍 聴 の 可 否 (非公開の理由)	可
傍 聴 人 数	0 名
議 事 次 第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 （1）路線バス、シーバスの見直し ①シーバスの新病院（たまの病院）への運行 ②大型シーバス線の延伸 ③小型シーバス線の積み残しへの対応 （2）タクシーによる新病院（たまの病院）への運行 4 閉会 詳細は、別紙会議録のとおり
特 記 事 項	無
事 務 局	玉野市公共施設交通政策課 電話 0863-32-5547

令和 6 年度 第 4 回玉野市地域公共交通会議 会議録

1 開会

2 会長あいさつ

柴田会長あいさつ

3 議事

・路線バス、シーバスの見直し（協議）

事務局より、資料 1 について説明

(1) シーバスの新病院への運行

【副会長】

- ・新病院のロータリーに大型や中型のバスが入れないが、病院は公共交通をどのように捉えているか、残念である。
- ・新病院の入口周辺の道路に、バス停を設置できないのか。

【事務局】

- ・新病院は限られたスペースの中で建設しており、大型バス等が入れるロータリーの設置は困難であった状況。
- ・入口周辺のバス停設置について、岡山県警と協議を行ったが、交差点が多い一帯で、安全上、バス停の設置は不可であった。

【副会長】

- ・下りのバス停が国道 30 号にあるが、上りのバス停も国道 30 号の反対側であればいいのでは。信号等の設置に制限があるのかもしれないが。

【専門員（玉野警察署）】

- ・ループ橋南の信号機があり、近すぎるために信号機設置は難しいと思う。

【副会長】

- ・県内でも不要な信号機を無くす流れであるが、安全面でいうと、新病院のすぐ北側の交差点は危険度が増すように思える。信号が設置できればバス停も可能である。
- ・他に、同じ 30 号としては新病院の東側に検察庁北交差点があり、ここに信号及び横断歩道がある。このあたりに上りのバス停を設置すれば、バスを降りた後、道路を渡って新病院の東側から入れるのではないか。

【事務局】

- ・その案も検討したが、病院入口が西側にあり、結果として道路を渡れても入口まで距離がある。なお、下りのバス停は、降車後に通路で病院入口に接続できるため、道路を回って入口に行く必要はない。

【専門員（玉野警察署）】

- ・30号の下りのバス停に上りも接続できるよう、上りの便について、あたりを一旦周回させて接続するのはどうか。

【委員（両備）】

- ・同様にその案も検討したが、病院に向かう以外の方、宇野駅に行きたい人等にとっては、5分程度同じ道を周回し、時間ロス等になってしまう。

【副会長】

- ・ロータリーの中には入れなくとも、ロータリー前の道路上ではどうか。

【事務局】

- ・検討の一つだったが、ロータリー出入り口にあり、安全上不可であった。

【委員（市）】

- ・現行の路線バスの停留所は旧NTTのため、それよりも近くなるころだが、本日の案は、事業者や警察と色々な案を検討してきたものであり、バス停の位置を変更する場合、時間をかけて警察と再度協議を重ねる必要があることから、来年の開院に間に合わせることが難しく、この件は今後も課題として捉える中で、開院に合わせて運行してまいりたい。

【副会長】

- ・開院後は、やはり北側の交差点は危険になると考える。運行開始して間もなくバス停の位置を変えるのも問題があるが、病院には何かしら接続する方向で考えてもらいたい。

(2) 大型シーバス線の延伸

【専門員（運輸局）】

- ・小串鉾立上山坂線の一部の区間を、新たに大型シーバス線と扱う理解でよい。

【事務局】

- ・そのとおり。

【専門員（運輸局）】

- ・これまで相引から番田は路線運賃であり、短距離では170円で乗車できていたため、その場合は負担は増えるが、利用者数等はどうか。

【事務局】

- ・この区間からの170円乗車実績は、月に1人いるいないの状況。この地域での移動需要は、本市中心部や岡山市内への移動が多い中、本市中心部への際にはシーバス運賃で移動できるメリットが生じることとなる。

(3) 小型シーバス線の積み残しへの対応

【副会長】

- ・路線バスの一部がシーバスとしてルート変更することで、路線バスが通らなくなる区間の影響はどうか。その区間で乗っていた方は、シーバスルートを利用できたり、あるいは地理上、それが無理だったりするのか。

【委員（両備）】

- ・影響を受けるバス停は、日比、羽根崎町、和田3丁目、和田社宅前、和田1丁目の5箇所。うち、日比、和田社宅前、和田1丁目はシーバスルートと近く代替が可能。
羽根崎町、和田3丁目は坂の途中にあるなど、地理上シーバスルートに行けないが、これらのバス停利用者は1日平均で0.8人と1人未満の状況である中、この場所は特急バスが約40分に1本通るため、移動需要に十分対応できる状況にある。

・タクシーによる新病院（たまの病院）への運行（協議）

事務局より、資料1について説明

【委員（地区）】

- ・現在、シータクで三井病院に行くところを、タクシーに乗り合う形で市民病院に行くという理解でよいか。

【事務局】

- ・そのとおり。

【委員（地区）】

- ・運賃は高くなるのか。

【事務局】

- ・まだ精査中のため分からないが、その可能性もある。

【委員（地区）】

- ・高くなることは仕方ない考える。

【副会長】

- ・色々と説明いただいたが、まず、運転手不足の課題については紹介されたと

おり、全国的に厳しく、公共交通網を維持したくとも、そもそも運転手不足で維持できないところもある。その点でいえば、市が事業者と派遣か何かの契約をし、市職員が運転する解決手段もあり、危機意識をもって是非取り組んでもらいたい。

地理に詳しく、交通安全を守り、しゃべれて接遇が良い、こういう人材に市職員がベスト。現役ではなくとも再任用等でもいいのでは。

【会長】

- ・市の内部も人材不足であり、難しいところもあると思うが、意見として頂戴した。

【副会長】

- ・大変かと思うが、運転手不足の解決策として是非捉えてほしい

【副会長】

- ・次に、新病院へ運行するこのパターンは、はたして公共交通なのかと思う。タクシーに乗り合う形だが、いわゆる病院専用のハイヤー事業になる。これは公共交通ではなく、病院がやればいいのか。
- ・今回の大元は、シータクで通院できていた人がいけなくなることへの対応であり、公共交通の枠としてシータクで捉えるもの。
- ・これまでのシーバスやシータクの考え方、あるいは他エリアとの整合性もあると思うが、主要施設の統合という話をきっかけに、将来的には全エリアからシータクでという視点も投げかけられているもの。
- ・シータクで行った時に何か問題があるのか、という実証実験をすれば良い。
- ・そのような後に整理していくべきは、シーバスは時間どおり予約なしに安く乗れるが、一方は予約が必要で高いといった差別化、2重構造など。

(4) その他

【副会長】

(総括)

- ・新病院のバス停については、新しい施設が出来るときには、公共交通のアクセスについてしっかり施設関係者等と協議が必要。市と公共交通に力を入れてきた反面、残念だったと感じている。
- ・タクシーによる新病院への運行については、実証実験を含めてできるだけ複雑にしないことが基本。そのような取組等から、皆さんが分かりやすく利用しやすい公共交通を作っていければと考えている。

4 閉会